

社会福祉法人島田福祉会 島田保育園 2025年度 事業計画

1. 2024年度の重点目標 成果と足りなかったこと

①前年度まで進めてきた「子どもの主体性」に対する正しい理解を踏まえ、それを見守る立場としての「職員の主体性」に対する法人の基本理念に関しても、全職員が正しく理解するよう学習を深め、日々の運営に反映させます。

・子どもの主体性の育ちのためには、「子どもの自由意志に任せる」ことではなく、「意思を尊重しつつ育てていく」ことが必要と言う法人の基本方針を各園で実践してきましたが、そのスタンスが各園の「主体性」に任されていたために、理解や方向性にバラツキが生じてきています。全ての園が法人方針を正しく理解した上で各園の「主体性」を発揮できるよう、法人方針を基本とした運営を意識できるよう学習機会を多くとり、意識の伸長に努めます。

成果	・研修や年齢別 MT 分科会にて環境を勉強していることを含め、その中で子どもの主体的な育ちに繋がるように職員自身が学習し、共有していき、会議や園内研修、外部の研修などの報告、話し合いを通して、感じたことや学んだことを積極的に保育に取り入れることができた。 ・「子どもの主体性」を育てるために必要な環境を整えようと環境設定や言葉がけを意識して出来た。 ・職員間でこどもの姿を共有し、その都度保育内容や保育環境を見直し、実践してきた。“まずやってみよう”の気持ちを大切にしていた。 ・子ども自身の成長に連れ、子どもが自分の身体に興味関心が持てるようになってきている。そこに、看護師が子どもに対して年間計画の保健行事を遂行してくれたことで、子ども自身が自分の身体を知る＝守るということに繋がりがつつある。 ・配慮の必要な子の中には、自分で考えて適切な行動に移すことが難しい子や、しっかりとルールを決めた方が友だちと楽しく遊べる子などがいることを知り、一人ひとりに合った対応を心がけた。 ・OJT による客観的な指導を日々の業務に活かし、各人が自ら業務の改善に努めることができた。
課題	・子どもの主体性について、「主体性」を幅広く捉えると曖昧になりやすく職員の中でもとらえ方が違う。主体性とは何かを再度、職員間で共有できるとよい。また、保育見学、職員交代でも理解を深めていく。 ・主体性と自由が混在してる状況はなかなか改善されない。縦の繋がりが簡単な報告だけになっているので、もっと保育過程にも踏み込んだ話し合いと全員が共通理解できることが望ましい。 ・積極的に取り組めるための環境作り。個人差や非常勤の方との情報共有の難しさ。 ・今後も職員が主体性を引き出せるような関わり方の意識を持ち、引き続き学習していく。

②「アフターコロナ」の運営を本格化させるため、前年度整理した新しい運営の形をベースにその中で育てる事に取り組みました。それによってある程度固まってきた運営の中で、子どもたちの育ちがコロナ前とどう変わってきてた 子どもたちの現状を正しく把握し、新しい視点での保育や、従来から変更したことによって生まれた課題の克服に取り組みいるのか、変わらないのかを適切に把握し、全体的な計画の中で重視していることに対して、コロナ禍前よりも子どもたち ます。

・前年度「コロナ禍しか知らない子どもたちの「今」を受け入れ、その育ちのためにどう向き合うかを具体的にイメージ」する事に取り組みました。それによってある程度固まってきた運営の中で、子どもたちの育ちがコロナ前とどう変わってきて いるのか、変わらないのかを適切に把握し、全体的な計画の中で重視していることに対して、コロナ禍前よりも子どもたち に定着しやすくなっているものは何か、または重視している内容を取り入れるために課題となることは何か等を整理し、翌

年度の全体的な計画に反映させます。

成果	・今年度は2歳児以上のクラスが祖父母との交流機会を設けることが出来た。祖父母世代と普段接する機会が少ない子どもたちもいる中で、一緒に遊んだり、甘えたり、一方では自信を持って劇を発表したりと、良い機会に繋がった。 ・園内で、異年齢交流を図れるようになり、年上、年下児にとって良い刺激となっている。また、感染症の状況に応じて、延期や交流内容を考慮して進めている。 ・他クラスとの交流をはかることができている。 ・行える行事(世代間)が増えてきている。 ・散歩先で地域の方や他園と一緒にになった時に、以前は遠慮してしまい、声をかけたりすることができなかったが、少しずつ地域の方からも声をかけてもらえるようになり、少しの時間ではあるが関わりがもてた。
----	---

課題	・従来の島田保育園の伝統的な良い取り組みややり方も大切にしながらも今の子どもにあった保育内容を見直す機会である。コロナウイルスに限らず、感染症対策は常に行っていく。 ・異年齢交流をする際には、事前に職員同士で打ち合わせをして計画的に保育を進めていく。感染状況によっては変更をするとも念頭に置き、途中での変更がある場合も考え、どの部屋、場所に、子ども、職員がいるのかを事務所にも報告し、連絡の取れるようにしておく。 ・今後も子どもの安全を第一に考え、社会情勢の変化に柔軟な対応をしていく。 ・消毒以外に、何に気を付けたら、互いに安心して交流（園庭開放など）が持てるかを考えていきたい。
----	--

③短期間で変わる行政のその時々の方針を正しく理解するために、行政との情報連携を徹底し、法人内部では職員間の情報共有を密に行います。・社会の動向、行政の方針等が一貫性なくめまぐるしく変わり、行政側がその責任割合を後退させていく中で、子どもの安全を守って運営すると言

う困難さを自覚し、行政の明確な指示がなければ法人が方針を決定するということを、全職員が正しく理解し、法人内の認識を共有できるよう、会議や MT の場での情報共有を一層徹底します。また、近年急増した有期雇用職員との情報連携の強化にも努力します。

成果	・職員一人ひとりが世の中の情勢や動向に目を向けており、世間で子どもに危険があった事例などに関しては、自園でもすぐに対応し危険の無いよう予防策に努めたり、公園での遊びルールブックを改定したりと、その都度職員で話し合いを重ねて変更をしている。 ・情報が共有されている。(リーダー会や園務日誌など) ・法人や大田区からの情報を、職員会議、リーダー会の他、必要なことは口頭ですぐに伝わるようにしたり、ノートや紙面で確認できるようにし、情報共有ができた。
課題	・話し合いを重ねることが出来る一方で、職員全員に周知が出来ていない案件もあり、伝達方法を考慮しなければならないこともある。 ・情報は共有されているが、ひとりひとりが行政の情報など知ろう、考えようという意識をもつところまでは難しいのが現状である。 ・“わかっているだろう”と思わず、すべてを伝えるようにする必要がある。

④各人の成長が業務の軽減につながり、更に運営向上に繋がるとい意識を明確に持ち、法人として業務や学習に積極的に取り組み、具体的な成果を自覚できるようなサポートを行います。・前年度の目標であった「各自の日常の運営とその効果を常に結びつける」事の発展として、「自分のスキルが上がれば日々の業務への負担感が軽減され、効率的に作業が進められる」ことを実感できるよう、各人に応じた業務を割り当て、達成感の育成に配慮します。

成果	・外部研修や法人内でのミーティング等で学びや課題の見直しの場を作り、業務に活かせるようにしている。 ・自分のクラスだけでなく、職員間で連携を図ることで保育以外の業務を勧めることができた。 ・研修で学んだことを職員会議で共有することができ、知識を身につけられた。 ・各人が各委員会や行事の担当を担い、話し合いをしながら業務を進めたり、クラスだけでなく、園全体の体制などに目を向けられるようにし、各人が業務に対する責任と自覚を持って業務にあたった。 ・クラスの運営をする際、保育者の動きを明確にしたことで、必要な人数で保育を行い、その分、抜けて仕事ができるなど、少しずつ効率的に作業が進められるようになった。 ・会議等で職員が受けてきた研修報告の発表を聞く事で周りの知識にもなり良かった。 ・行事の作り物でも担当のみではなく全体で行なっている。
課題	・研修報告をする機会が少なく、職員会で時間が限られてしまうので、報告の仕方を考えていく必要がある。 ・職員一人一人が園のために、出来ることは何かを考え、積極的に研修に取り組む必要がある。 ・日々に追われ、スキルをあげたいという気持ちがあっても研修へ参加ができていないように感じる。計画的に、また一緒に組んでいる職員を信用し、研修などに積極的に参加する職員が増えるようにしたい。

⑤利用者アンケートを継続的にを行い、結果を運営改善に役立てます(毎年)。

・島田・大森駅前には第三者評価・利用者アンケートを受診し、他園は実情に応じた形式でアンケートを行います。全園とも日常的なコミュニケーションを重視し、利用者との信頼関係の構築に努めます。アンケート結果はすべて職員・保護者に公表し、相互理解による改善を進めます。

成果	・日々の保育士のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係が生まれ、運営委員会では保護者から感謝の言葉が聞かれている。 ・受入時や受け渡し時、連絡帳等でコミュニケーションをとり信頼関係を築いている。 ・意見や提案があれば、職員会議で共有し、職員全体で改善策を考えることができた。 ・運営委員ででた意見に対して柔軟に対応している。また、送迎時や面談の際に出た要望においても耳を傾け可能な限り要望に応えるようにした。 ・保護者の悩みなどは同じ職員が話を聞くようにし、信頼関係を築けるようにした。 ・第三者評価や保育所運営委員会での保護者からの意見や苦情への対応を聞き対応することができた。
課題	・第三者評価の結果等を踏まえて運営改善に役立てたい。 ・何度説明しても、何回も同じことを聞いてくる保護者がいるので、伝え方を工夫する必要性を感じた。 ・保護者からの意見に対しての改善を今後も行いながら『保育の質』の向上に努める。

⑥コロナ禍前まで、実施していた地域の子育て支援活動のうち、今までに再開した活動については、より一層の充実を目指します。まだ、未だ再開できていない部分は廃止することを前提に内容を確認し、将来的な再開の可否について運営の中で整理します。

・再開した地域活動に積極的に取り組み、中断する前よりも内容が向上するよう心がけます。また、前年度までに再開が難しいと判断した活動に関しては、漫然と再開のタイミングを計るのではなく一旦中止を決定し、将来的に再開が可能かを長期的に検討していきます。

成果	・世代間交流の方法を見直し、祖父母との関わりの機会を作ることができた。 ・児童館への出前保育だけではなく、年長児が地域のイベントへの参加と職員が地域のイベントの保育等に参加した。また、年長児は地域の複数小学校への訪問をし小学生との交流に加え、小学校への期待感が持てたように感じる。 ・出前保育での離乳食講座では栄養相談や食のアドバイスを今まで以上に充実したものにできた。
課題	・図書室開催について出来ていないので、今後の課題である。 ・過去の出前保育の内容を確認し、新たな内容を構築し地域交流に役立てる。

⑦2024年度からの第二次中期計画を職員全体が把握し、理解して運営できるよう周知及び説明を十分に行います。

・第二次長期計画・第一次中期計画策定時以降本格化した、コロナウィルス感染拡大防止策下の運営の中で、計画内容が実現できない部分が多くあったことを踏まえて作成された第二次中期計画の意義を、職員全体が正しく理解し、適切に運営に反映させることができるように、内容の説明や現実の運営との関わりについて年間を通して理解と学習を進めます。

成果	・職員一人ひとりが責任感を持ち、園運営の改善に努めることができた。 ・職員会議で職員が共有できるように話し合う機会を設けることができた。 ・園長が内容を分かりやすく伝えてくれたことで、中期計画などについて、職員が園の運営で自分たちに何ができるかを考えるようになってきている。
課題	・1年間の中で計画への意識が薄れてしまうことがあるので、全体での読み合わせを随時行っていく必要がある。 ・今後も法人の計画に関心を持ち周知徹底していく。 ・引き続き、わからないことを聞きながら、計画の内容について、自分で理解しようとする努力を要する。

2. 2025年度の重点目標

①2025年度に導入予定の、法人の財政の健全化のための各種各種施策に関して、職員に正しい情報の提供することで、職員からの改善策を募り、職員と法人が一体となって難局を切り抜けることで、職員の一体感を育て、地域の社会福祉に尽力するという本来の法人の使命を各人が改めて認識するよう努めます。

行政の先行き不透明な施策により、財政立て直しを急務とせざる得なくなった実情と、職員処遇への影響を最低限に留めるという方針を職員に端的に伝え、法人の運営意義は利益確保ではないが、本来の使命である社会福祉へ貢献を滞りなく行うため、将来的に安定した運営を継続するには、終始のバランスをとる必要がある事への理解を深め積極的に運営に関わり、向上させていこうとする意欲を育てます。
・製作などで画用紙を使用する時は、無駄がないように型をとったりする。 ・既製品の玩具だけでなく、廃材を利用して玩具を作る。 ・新規購入したものは園全体で共有できるようにリスト化していく。 ・職員が資源を大切にすることを意識を持ち、その姿勢を見せたり、方法を伝えたりして実践していく。 ・物価高騰による食材発注の見直しで、経費削減を目指す。 ・物品購入時には、同じものはないか、玩具、道具などは似ているものはないか、職員同士で検討しながら物品購入を考えていく。 ・どのような補助金があるのか、地域に貢献するとともに、補助金に繋がる活動をしていく。 (出前保育・実習の受け入れ・老人ホーム訪問等)
②前年度までに学習と実践を深めてきた「こどもの主体性」に対する正しい理解を踏まえ、主体性の育ちを見守るという意識を明確に持つことが「適切な保育」に繋がるという事を全職員が正しく理解するよう学習に努め、日々の運営に反映させます。
前年度は子ども主体の育ちのためには、「意思を尊重しつつ育てていく」ことが必要という法人の基本方針の徹底を図りました。「適切なサポートを行う中でこどもの意思を尊重する」という意識の上にこそ「適切な保育」が成り立つという事を理解し、法人方針を基本とした運営を意識できるよう学習機会を多く取り、意識の伸長に努めます。
・子どもに大人の「普通」「当たり前」を押し付けない。子どもの気持ちと子どもが何に興味持っているのかを観察し、それが広がるように物的環境を整える。 ・職員会議で、リフレーミングを全員で行うなど、常に対応の仕方の修正をしていく。 ・クラスMTを重ね、子どもに合わせた活動を行う。また、配慮の必要な子への対応を出来るよう担任間だけでなく、全職員の共通理解に努める。 ・「主体性」について、園全体で共通理解をし、パート職員、新入職員にも共有していく。 ・保育をする中で、子どもや職員に対する伝え方が不適切にならないように、自分自身や職員同士で振り返りを行う。 ・野菜を栽培することで、食への興味関心を広げ、クッキングをともにすることで、積極的に、自分から食べられるもの、量を増やしていく。 ・「いたい子あつまれ」外遊び後、看護師ブースを作り、子どもが自分からケガを大人に伝えられる場・機会を設ける。 ・子どもの主体性＝適切な保育 に繋がるよう不適切保育について学ぶ機会や話し合いを重ねていく。 →担任交換・他園見学・公開保育・職種別体験
③前年度確率したアフターコロナの運営を検証し、新しい運営の形を更に向上させるよう努め、併せて感染症との新しい向き合い方を検討します。
前年度「アフターコロナの運営を本格化させる」ことに取り組み、コロナ前までの実践を現在の子どもたちに合わせた形に修正し、その成果を翌年度の全体的な計画に反映させました。今年度はその検証を行い、更なる向上を目指します。また、社会全体のコロナウィルス感染症への備えが更に緩和されたことで「感染症対策」全般までも軽視される状況の中で、インフルエンザやマイコプラズマ肺炎など、新たな感染症の脅威が生まれていることを正しく認識し、適切な感染症対策を運営の中に根付かせます。
・コロナだけでなく、様々な感染症についての知識を学び、手洗い、うがいの大切さとともに、保護者に伝える。熱がなければ登園できているので、なぜ休んだ方が良いのかなど理由をしっかりと伝える。 ・日々、子どもの体調を観察し、異変を感じたら、職員間で除法を共有し、保護者に早めに伝えていく。 ・アフターコロナであっても、来訪者の検温チェックは様々な感染症が出ているので続けていく。 ・児童館の出前保育だけでなく、地域のイベントにも特に防災関係は参加していくよう地域関係を深める。 ・園児の手洗いの保健指導を行い、定期的に看護師が手洗いしているところを確認する。 ・祖父母と交流機会を再開できたので、今後も取り入れていく。
④正しい規範意識が運営を円滑化するという意識を明確に持ち、法人としてのルールの確率や権利義務の開設などの学習に積極的に取り組み、職員各自が互いにルールを守る事で勤務が効率化するという自覚を育てます。
近年、義務を履行しないまま権利主張だけをする職員の発言が運営に影響を与えることが多くなっています。権利と義務との関係を正しく理解している職員の勤務意欲を減退させることのないよう職員教育に一層力を入れ、互いにルールを守る事で摩擦が無くなり、効率的な勤務が行えるという自覚を育てます。

⑥地域活動の充実 子育て支援計画をもとに地域活動を実施
の充実と共有

⑦第二次長期計画 事業計画に基づく運営
処遇改善 ヒアリングにて個人の研修計画を作成・実践
次年度目標についての助言

園内研修の実施
ヒアリング 日常的な取り組み（声かけ・健康相談・環境整備・外部研修など） 中間ヒアリング
職員アンケート検討

評価反省会議で内容
来年度についての討議
過去の総括・討議の総括
年度末ヒアリングにて評価
法人合同研修会参加・報告
園内研修のまとめ・発表 次年度に向けての討議
年度末ヒアリング

中間ヒアリングにて確認・助言
法人合同研修会参加・報告

3. 施設運営

(1) 児童の処遇 ア
クラス編成

	年齢	保育士数	園児数	備考(他の保育士、職名、職員数記入)
	0 歳	4	1 2	園長 1 主任 1 副主任 1 フリー 1 非常勤保育士 8 (有資格者) 看護師 2 給食 5 事務 1
	1 歳	3	1 5	
	2 歳	4	2 0	
	3 歳	2	2 0	
	4 歳	2	2 0	
	5 歳	2	2 0	
合計		1 7	1 0 7	

イ 月別保育予定日数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	備考
2 5	2 4	2 5	2 6	2 5	2 4	2 9 4	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
2 7	2 3	2 4	2 3	2 3	2 5		

ウ 健康管理

項目	対象	回数	実施月	項目	対象	回数	実施月
健康診断	0 歳児	週 1 回		歯科検診	全園児	年 2 回	6 月・11 月
	全園児	年 2 回	5 月・10 月	身体計測	全園児	月 1 回	毎月
				蟯虫検査	3～5 歳児	年 1 回	5 月

エ 保育(各クラスの保育目標)

	年齢	年 間 目 標
--	----	---------

	0 歳児	・安全で清潔な環境作りを進めながら「楽しく食べること」「機嫌良く過ごすこと」「安心して眠れること」を目指し、生活リズムを作る ・一人ひとりの発達、発育に応じて離乳の完成、安定した歩行、言語の獲得を助ける ・落ち着いた雰囲気の中で欲求を満たし、情緒の安定を図るとともに、保育者との信頼・愛着関係、仲間関係の基礎を育てる
	1 歳児	・自分で行おうとする気持ちを尊重し、保育者の援助を受けながら基本的生活習慣を身につけようとする ・保育者との信頼関係を築きながら、ことばのやりとりを楽しめるようにする ・友だちとの関わりを通して、一緒に遊ぶ楽しさを知る ・散歩や戸外遊びを多く取り入れ、元気で丈夫な身体を作る ・自分からやりたいという気持ちや好奇心が芽生え、探索活動などの遊びを十分に楽しむ
	2 歳児	・基本的生活習慣(食事、排泄、睡眠、着脱)を自分でしようとする意欲を育て、身につけていく ・保育者との信頼関係を築き、自分の気持ちを受け止めてもらいながら安心して過ごす ・遊びの中で、身体を動かして運動能力を伸ばし、表現活動の楽しさを知る ・日常生活に必要な言葉が分かるようになり、絵本を楽しんだり、保育者や友だちとのかかわりを喜んだりする
	3 歳児	・基本的生活習慣が身につき、様々なことを自分からしようとする ・経験したことや思ったことを自分なりの言葉や行動で表現し、身近な人と言葉でのやりとりを楽しむ ・様々な生活経験から興味や関心が増え、十分に自己表現をする ・友だちと一緒に遊ぶことを楽しみながら人との関わりを深めていく
	4 歳児	・生活に必要な基本的な習慣や態度を身につけ、できることを増やしていく。 ・全身を動かして遊ぶ楽しさを味わいながら、身体や運動機能の発達を高める。 ・人との関わりを通して、日常生活に必要な言葉や挨拶を身につける。 ・子どもたちの「やってみよう」の意欲を高め、「やればできる」という経験を沢山重ねる ・相手の気持ちを想像し、決まりを守る大切さを知る。
	5 歳児	・友だちと協力し合い、目的を達成していく喜びを味わいながら、思いやりの心を育てる。 ・見通しを持って行動し、自分の意志や判断で生活を作り出す。 ・最後までやり遂げる経験を積み重ねることで喜びや自信に繋げ、自己肯定感を育む。
給食		・食と健康：栄養のバランスを考え、食生活の大切さを伝える 自分の健康に関心を持ち、必要な食品を好き嫌いなくおいしく食べる ・食と人間関係：様々な人と一緒に食べる楽しさを知る 食事の話題を共有することで人とかかわりを広げる ・食と文化：人々が築き、継承してきた様々な食文化に出会う中で、食生活に必要な基本的習慣、態度を身につけていく ・命の育ちと食：栽培や食事を通して、身近な存在に親しみをもち、すべての命を大切にすることを心を持つ ・食と料理：旬の食材を使い、素材に関わり、調理することに関心を持つ二十四節気の旬の食材を使用した献立を取り入れる
保健		・子どもの最善の利益を考慮し、病気の早期発見と感染症流行予防 ・事故防止に努める。
		・健全な心身の発達を図るために、子どもの健康維持増進を保護者・保育士と共に行っていく。

[主な行事予定]

4 月	・子どもの日集会（幼児） ・誕生会（幼児） ・保護者会（３クラス）	10 月	・運動会 ・秋の健康診断 ・誕生会（幼児） ・個人面談・保育参観（わかば）・遠足（ひまわり）
5 月	・春の健康診断（全クラス）・ぎょう虫検査 ・保護者会（３クラス） ・誕生会（幼児）	11 月	・個人面談・保育参観（ひA）・個人面談・保育参観（ひB） ・遠足（たんぽぽ）・歯科検診（全クラス） ・誕生会（幼児） ・魚の解体見学（幼児）
6 月	・歯科検診（全クラス） ・誕生会（幼児） ・プール開き（幼児） ・個人面談・保育参観（ふたば） ・個人面談・保育参観（たんぽぽ）	12 月	・保護者会・生活発表会（ひA） ・世代間交流（ひA） ・もちつき体験（つばみ以上） ・クリスマス会（全クラス） ・誕生会（幼児）・不審者訓練・個人面談・保育参観（つばみ）

7 月	・七夕集会（幼児） ・誕生会（幼児） ・夏のお楽しみ会（全クラス）	1 月	・お正月遊び（つぼみ以上）・誕生会（幼児） ・世代間交流（ひB） ・保護者会&生活発表会（ひB・たんぽぽ） ・保護者会（ふたば）
8 月	・誕生会（幼児） ・交通安全教室（幼児） ・観劇会 ・キャンプごっこ（ひA）	2 月	・節分（つぼみ以上）・誕生会（幼児）・新入園児オリエンテーション ・世代間交流（ひまわりB） ・保護者会（わかば・つぼみ）
9 月	・引き取り訓練（全クラス）・誕生会（幼児）	3 月	・ひなまつり会（つぼみ以上）・お別れ遠足（ひA） ・お別れ会（つぼみ以上） ・誕生会（幼児） ・卒園式（ひA）

- ・行事の中で異年齢の交流を意図的に行う。
- ・行事については前もって担当で打ち合わせを行い、2週間前までに計画書を提出し、リーダー会、職員会議で報告する。行事終了後は反省を提出し、リーダー会で報告を行い、次年度に活かせるようにする。

オ 栄養管理

集団給食施設栄養報告	年 2 回
献立作成上の留意点	・給与栄養目標量を満たすよう食品構成での基準を考慮する ・栄養のバランスに配慮し、献立に変化を持たせる ・季節の食品を献立に盛り込む ・年齢、発達を意識し、咀嚼を促す料理を取り入れる。咀嚼や嚥下機能の発達を促すことができるよう、食品の種類や調理方法に配慮する。 ・子どもの色に関する思考や体験が広がりかつ深まるような多様な料理の組み合わせに配慮する。 ・旬の食材を使用するなど季節感を考慮する。 ・食に関する思考や体験が広がり、深まるよう、幅広い種類の食品を取り入れる。 ・素材の味を活かし、料理の味づけは薄味にする。
給食供給者としての諸管理	・衛生管理点検表 ・食品の加熱加工の記録簿 ・食品保管時の記録簿 ・検収の記録簿 ・献立表 ・栄養出納表 ・給食日誌 ・検食簿 ・栄養管理状況報告書・食品納入書 ・食品材料発注書 ・喫食状況日報 ・給食だより

カ 安全管理

交通安全教室	8 月に実施予定
非常災害時の避難訓練	毎月 1 回に実施
引き渡し訓練の実施	9 月 1 日に実施
安全点検	月 1 回の避難訓練時に実施

キ 食育計画

- ・保育課程の食育の計画をもとに、クラス、担当で年間計画を立てる。
- また、毎月の指導計画の中で年間計画を具体化し、実践、評価を行う。

年齢	目標
6 ヶ月未満児	・おなかがすき、ミルクを飲みたいとき飲みたいだけゆったりと飲む。 ・安定した関係の中で、ミルクを飲み、心地よい生活を送る。
6 ヶ月から 1 歳 3 ヶ月未満児	・おなかがすき、ミルクを飲み、離乳食を喜んで食べ、心地よい生活を味わう。 ・いろいろな食べ物を見る、触る、噛んで味わう経験を通して自分ですすんで食べようとする。
1 歳 3 ヶ月から 2 歳未満児	・おなかがすき、食事を喜んで食べ、心地よい生活を味わう。 ・いろいろな食べ物を見る、触る、味わう経験を通して自分ですすんで食べようとする。
2 歳児	・いろいろな種類の食べ物や料理を味わう。 ・食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ。 ・保育者を仲立ちとして、友だちとともに食事を進め、一緒に食べる楽しさを味わう。
食と健康	食を通じて、健康な体と心を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。 ・できるだけ多くの種類の食べ物や料理を味わう。 ・自分の身体に必要な食品の種類や働きに気づき、栄養バランスを考慮した食事をとろうとする。 ・健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。

3歳以上児	食と人間関係	食を通じて、他の人々と親しみ支え合うために、自立心を育て、人とのかかわる力を養う。 ・自分で食事ができること、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう。 ・さまざまな人々との会食を通して、愛情や信頼感を持つ。 ・食事に必要な基本的な習慣や態度を身につける。
	食と文化	食を通じて、人々が築き、継承してきたさまざまな文化を理解し、作り出す力を養う。
		・いろいろな料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたりし、さまざまな文化に気づく。 ・地域で培われた食文化を体験し、郷土への関心を持つ。 ・食習慣、マナーを身につける。
	命の育ちと食	食を通じて、自らも含めたすべての命を大切にできる力を養う。 ・自然の恵みと働くことの大切さを知り、感謝の気持ちを持って食事を味わう。 ・栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみをもち、すべての命を大切にできる心を持つ。 ・身近な自然にかかわり、世話をしたりする中で、料理との関係を考え、食材に対する感覚を豊かにする。
	料理と食	食を通じて、素材に目を向け、素材に関わり、素材を調理することに関心を持つ力を養う。 ・身近な食材を使って調理を楽しむ。 ・食事の準備から後片付けまでの食事作りに自ら関わり、味や盛りつけなどを考えたり、それを生活に取り入れようとする。 ・食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気でする。

(2) 職員の処遇

ア 環境構成

職種	人数	職種	人数
園長	1	調理員	4
主任	1	看護師	2
副主任	1	事務	1
保育士	19	嘱託医	2
栄養士	1	非常勤保育士	9

イ 健康管理

項目	対象・概要	回数
職員健康診断*1 または生活習慣病検診*2	*1 35歳未満の常勤職員全員 (非常勤職員には健康診断書の提出を要請する) *2 35歳以上の常勤職員全員	年1回
腸内細菌検査	調乳・調理担当者全員主任 副主任 看護師	月1回

ウ 職員会議

法人経営会議	月1回	法人内看護師MT	月1回	リーダー会議	月1回
園長MT	月1回	法人内調理MT	年6回	フロアーMT	月1回
主(副)任MT	年6回	法人内事務MT	月1回	担当・クラスMT	月1回以上
法人内保育士年齢別MT	年3回	職員会議	月1回		

エ 研修計画

1. 園内全体研修

- 全職員で「学習・実践活動」に取り組む。

2 0 2 5年度の園内研修テーマ「異年齢の関わりを大切に、子どもたちの心を育む」設定理由

- 園舎の構造上クラスごとの保育となり、他のクラスの状況（環境や子どもの様子等）が見えにくい、園全体としての保育を把握していたほうが良いと感じたため。
- 他クラスの子どもの発達を実感することで、発達段階を学ぶことができ保育の見通しがつきやすくなる。
- 他職員の保育の仕方を知ることによって刺激を受け、自身の保育の幅が広がるのではないか。

その他研修

- 月1回の職員会議の中に、「学習・実践活動」の討議を計画的に取り入れる。
- 外部研修で学んだことを乳幼児ミーティングや職員会議の中で報告、討議する。
・保育士はリトミックの園内研修を職員会議の前または後に行う。 ・各園交代で、法人全体に向けてのリトミック講習会を開催 個別研修・外部研修

- ・外部研修には各自が3回以上参加する。
 - ・外部研修の参加形式は下表の通りとし、事前の申し出により勤務日を調整する。
- ・指名研修は、必要な研修、経験年数などを考慮し、職員が平均的に参加できるようにする。
- ・個人研修は業務目標の中で計画を立てる。
 - ・天野式リトミック研修会(各園実施)の参加については日程と体制に記入。

種別	用件	費用負担等	備考
承認研修	本人の希望による研修	研修費は保育士 1 人年度 30,000 円他職種は 10000 円まで園が負担 交通費、食事代(500 円) の全額を園が負担	研修が時間外、 休日にあたる場合は 研修手当支給
指名研修	園として必要な研修に個人を指名して参加させる研修	研修費、交通費、食事代(500 円) の全額を園が負担	
自主研修	各人が希望し、各人の費用負担で受ける研修	支給対象外	

OJT

- ・法人OJTも含め、OJT計画を職員の意見を取り入れて作成し、リーダー会等で提示する。
 - ・各クラス、給食など計画的に入り指導を行う。
- ・OJTの報告内容を全職員で共有する。
- ・若月研修主任によるOJT実施

2. キャリアアップ研修

	名前	乳児	幼児	障がい	食育・ア	保健・安全	保護者	マネジメント
副	A	○	○	○	○	受講	○	○
専	B	○	○	○	受講	○	○	○
専	C	○	受講	○	○	○	○	○
専	D	○	○	○	○	○	○	○
分	E		○	○	○	○		
分	F			受講		○		
分	G					○		
分	H				○			
分	I	○						

オ 福利厚生

- ・福祉医療機構退職共済制度加入
 - ・職員相互保険加入
- ・大田区勤労共済加入
 - ・入院見舞金制度加入
- ・職員共済会「さくら会」(常勤職員・非常勤希望者加入)

4. 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務・管理事務

会計責任者	園長	内部経理責任者	園長
施設管理責任者	主任	防火管理者	主任
出納責任者	事務		

イ 児童処遇事務(保育、給食、健康管理)

児童処遇責任者	主任	衛生管理責任者	看護師
食品衛生責任者	栄養士	食育推進責任者	栄養士

(2)設備関係

ア 園舎・園庭の点検

- ・安全点検の項目に入れ、安全点検時や使用前に必ず点検をする。
 - ・消防点検・・・年に2回セコムに依頼
 - ・エレベーター点検・月1回依頼し、点検
 - ・冷暖房点検・・・使用開始時前に1回
 - ・換気扇・エアコン・・・冷暖房点検時に清掃依頼
 - ・園庭などの整備を計画的に行う。
- ・防火管理者を責任者とする。

イ 要修理箇所の洗い出し、計画的修繕

- ・園内階段手すりペンキ塗装、非常階段ペンキ塗装、各クラスの扉の交換の検討
- ・保育室床補修、

(3)備品関係

ア 備品購入予定 P C イ 保育用品購入予定 ワゴン車等 ウ 給食用品購入予定 エ 固定資産物品購入予定 トイレテナント等災害用品

(4)災害対策

ア 避難訓練・消火訓練 非常災害対策訓練年間計画表に基づき年12回実施する。
9月に引き取り、引き渡し訓練を行う。

イ 防災設備の点検委託

点検箇所	実施日	業務委託先	点検箇所	実施日	業務委託先
消防設備点検等監視カメラ点検	年2回(届け出1回)年3回	セコムテクノサービス	冷暖房点検(空調関係)	年2回	フォースクリーン社
建築設備定期点検	年1回	栄和設計	エレベーター点検	月1回	日本オーチス
自動ドア点検	月1回	フルテック			
学校110番点検	年4回	電気通信共済会			

ウ 非常食料の備蓄

(全児童数+全職員数)×3食×3日分

※収納場所 保育園4F押し入れ 駐輪場倉庫 3階エレベーター横 各クラス

5. 地域社会との連携 (感染症対策を踏まえつつ地域と相談しながら可能な範囲、方法で行っていく)

- 保護者が要望する地域の情報を利用しやすい形で提供する。(園のしおりなど)
- 子どもが職員以外と交流できる機会を確保する。
 - ①園の掲示板、ポスターの掲示、ちらし等の配布により、園の様子を知らせたり行事への参加を呼びかけたりする。 ②日常的な声かけやあいさつは欠かさない。
 - ③地域の町会、老人いこいの家、ディサービス施設、商店会、民生・児童委員などとの交流を深める。
 - ④職員や園児が地域を知るために、地域見学(消防署、地域の商店など)を積極的に行う。
 - ⑤児童館、町会や地域の行事の情報提示を保護者に行う。
 - ⑥行事などの交流、学校参観、情報交換会、体験学習などの開催を設定し、小学校との連携を強める。
 - ⑦中高生などの保育体験、地域からのボランティア受け入れを積極的に呼びかける。
(大森第2中、大田区および東京都社会福祉協議会との連携)
 - ⑧法人のホームページに園の紹介をする。
 - ⑨年3回程度、地域の子育て家庭を対象に「子育て支援講座」を開催し、子育て教育相談も常時受け付ける。
 - ⑩子育てのノウハウを地域に積極的に提供していく。

緊急一時保育、体験保育、子育て・教育相談、出前保育、子育て支援講座、子育てサークル活動、出産を迎える親の体験学習

6. 子育て支援活動への取り組み

(大田区独自の地域活動計画が未定なため、詳細については大田区の方針によって調整する)

課題	予定回数	主な内容
緊急一時保育	延べ20人程度	緊急に保育を必要とする子どもの保育を行う。
体験保育	延べ10人程度	保育園での保育を体験してもらう。 育児、入園相談などを受ける。

出産を迎える親の体験 保育	延べ12人程度	(掲示板への掲示や専用パンフレットの配布。施設見学時や行事に参加した方などにも呼びかける。)
世代間交流	年10回程度	園行事への参加、地域の高齢者施設との交流
退所児童との交流	年6回程度	園行事への参加、入所児童との交流・夏休み教室
小中校生の育児体験	延べ10日以上	小学生、中学生の体験学習を受け入れる。
保育拠点活動支援	年6人以上	教育機関と連携し、保育実習生を受け入れる。
育児・教育相談	年20件程度	来園、電話、FAX、メールなどで受け付ける。
出前保育	年4回程度	児童館にて地域の保護者、子どもたちに保育内容を紹介したり、育児相談を受けたりする。

7. 職員会議

日程	9:00～ 10:00	10:00～ 11:00	11:00～ 12:00	13:00～ 13:30	13:30～ <u>職員会議・ミーティング 他</u>
4/26 (土)	保護者会	各種委員会	フロアMT	リトミック研修	書式について(各種計画書) 園内研修・勤務マニュアル経理の報告・ケース会議リスクマネジメント委員会・各種会議の報告 他
5/24 (土)	各種委員会保護者会	フロア・クラスMT	園内研修	リトミック研修	各種委員会・マニュアルケース会議・リスクマネジメント委員会・各種会議の報告 他
6/28 (土)	各種委員会 ・保育所運営委員会	職員会議 (マニュアル ・ケース会議 ・リスクマネジメント委員会 他)	フロア・クラスMT	リトミック研修	法人合同研修会
7/26 (土)	リトミック研修	各種委員会	フロア・クラスMT	園内研修	マニュアル・ケース会議リスクマネジメント委員会各種会議の報告 他
8/30 (土)	リトミック研修	各種委員会	フロア・クラスMT	園内研修	マニュアル・ケース会議リスクマネジメント委員会各種会議の報告 他
9/27 (土)	・各種委員会 ・保育所運営委員会	フロア・クラスMT	園内研修	リトミック研修	マニュアル・ケース会議リスクマネジメント委員会各種会議の報告・中間総括 他
10/25 (土)	リトミック研修	各種委員会	フロア・クラスMT	園内研修	マニュアル・ケース会議リスクマネジメント委員会各種会議の報告 他
11/29 (土)	リトミック研修	各種委員会	フロア・クラスMT	職員会議 (マニュアル・ケース会議 ・リスクマネジメント委員会他)	法人合同研修会
12/20 (土)	・保護者会 ・生活発表会 ・保育所運営委員会	各種委員会	フロアMT	リトミック研修	園内研修・マニュアル・ケース会議リスクマネジメント委員会各種会議の報告 他

1/17 (土)	保護者会 生活発表会	各種委員会	フロアMT	リトミック研修	園内研修・マニュアル・ケース会議 リスクマネジメント委員会 各種会議の報告 他
2/1 (日)	4園合同職員会議		各園職員会議 10:30～ ・来年度事業計画と人事・クラス担当別ミーティング 他		
2/14 (土)	新入園児オリエンテーション				
3/7 (土)	職員会議		新・職員会議	クラス MT	来年度の具体計画・体制決定 クラス・担当別ミーティング
3/28 (土)	卒園式		新年度移行準備		